

	該当ページ（該当箇所等）	意見のご提案の内容	回答
1	67ページ （6）管路事故の低減 ⑩施策 漏水対策の実施	管路事故防止対策の実施は、 ① 基礎的対策として配水管網のブロック化、減圧弁による昼夜水圧の一定化及び配水管網整備等で、	お示しのように管路事故防止対策は、基礎的対策、予防的対策、対症的対策を組み合わせるべきであると認識しています。現在、基礎的対策として、送水管整備事業を優先的に実施中で、配水区域の見直しも予定しています。送水管整備事業の完了後に、主要な配水管の更新を計画しており、水質維持や事故時の対応のために重要となる配水管網のブロック化につきましても、合わせて検討します。 なお、減圧弁による昼夜水圧の一定化は、難しいと考えています。
2		② 予防的対策として老朽配水管の布設替えや給水管の取替え、水圧の調整等で、	老朽配水管の布設替えや給水管の取り換え、水圧の調整等は、毎年、計画的に実施しています。
3		③ 対症的対策としては地上漏水の即時修理や地下漏水調査等である。	地上漏水は、即時修理を行っています。地下漏水調査も継続的に実施しており、発見箇所は、即時修理を行っています。
4		ブロック化で、日々の各配水量及び夜間最小流量の確認が容易になる。並びに、日々の統計で各地区の漏水（配水）状況が確認出来、効率的な管路更新事業が出来る。（明日の漏水は、漏水調査では、調査出来ない）	各配水エリアの流量等については、第一浄水場にリアルタイムデータを送信、確認しており、異常があれば漏水等を疑い調査しています。ブロック化された配水ブロックを監視対象とすることにより、さらにきめ細かい管理が可能となりますが、必要経費も含め、配水管の更新に合わせて検討します。
5		「漏水リスクマップ」は、ある会社からの提案ではないですか、（このマップを作成するには、管路情報、漏水事故の位置・管路種類、土質などの資料）	人工衛星やAIを活用して漏水リスクマップを整備する新技術が、複数の企業により開発されています。岩出市では、従来からの漏水センサーを用いた調査に加え、管路の布設情報や過去の漏水記録、土壌データ等と組み合わせ、AIを活用し漏水の発生確率を算出する劣化診断について検討しており、管路の更新計画に反映することで、漏水の未然防止につなげてゆく予定です。

	該当ページ（該当箇所等）	意見のご提案の内容	回答
6	(7) 災害への対応力強化 施設⑩ 広域連帯の推進	① 自然災害及び施設事故等に対する危機管理対策のため、近隣市町を緊急連絡で結び、緊急時に水道水を相互融通することで、安全で安心なライフラインの確保を図るものですか。	お示しのとおり、災害や事故等による断水に対応するため、岩出市と和歌山市間で2箇所、紀の川市間で1箇所の緊急連絡管を設置しています。緊急時に隣接市町と水道水を相互融通することで、安全で安心なライフラインの確保を図っています。
7		② 緊急連絡管は、緊急時速やかに配水出来るように常時から相互融通する必要があるのでは。	緊急連絡管は常時からの相互融通は想定しておらず、通常は閉止していますが、緊急時には速やかに開栓して供給を確保する体制が整備されています。
8		③ 給水車は、一義的である。水害により浄水機能が無くなった時は、「水」はあるが、他の自治体から運搬する必要がある。	大規模災害時には、近隣事業体においても被害が生じていることが想定されるため、日本水道協会を通じた広域的な支援による対応を基本に考えています。給水車につきましては、日本水道協会が構築している相互応援体制により、被災地からの要請に対して、他自治体から派遣されます。
9		④ 岩出市には、紀の川、根来川等の大・中・小河川、農業用ため池（井戸）がある。	岩出市では、緊急時浄化装置を危機管理室が保有しており、最悪の場合には、緊急時浄化装置を用いて、河川水等からの給水が可能です。
10		⑤ 緊急時浄化装置（簡易タイプ・トラックタイプ）で、給水することが出来る（浄化装置は、県・広域連携で検討する）。長期断水は、浄化装置である。0.5m ³ /時から12m ³ /時まで浄水出来る。	緊急時浄化装置については、能力が小さいことなどから、日本水道協会が構築している相互応援体制の対象外になっています。広域連携等については、今後の検討に当たっての参考とさせていただきます。

	該当ページ（該当箇所等）	意見のご提案の内容	回答
1 1	その他 【広域化の検討】	① 人口減少並びに節水器具による配水量減少時代である。水道事業も広域化を見据える必要があるのでは。	岩出市では、業務の共同化や経営の一体化まで含めた広域連携について、いまずぐに具体的施策として進めなければならない状況ではありません。しかしながら、将来の人口減少等を見据えて、長期的な視点で検討が必要な課題であると認識しています。
1 2		② 給水区域の変更は、議会などとの調整が必要であるが、この区域がどこから配水すれば、効率的・安定的に配水出来るか検討し、広域化する必要があるのでは。	広域化につきましては、様々な手法が考えられます。現在、和歌山県が県水道広域化推進プランを策定し、広域化の推進を主導しており、岩出市も関係会議に参加して、情報収集を行っています。
1 3		③ 例えば、船戸地区は、1級河川紀の川に県管理の岩出橋に水道管が添架されていると思いますが、この地区の隣接行政は和歌山市、紀の川市である。この2市から配水する方法もあるのでは。	お示しの手法につきましては、以前に検討したことがあります。2市の配水池からの距離や配水池の容量等により、効率的ではないと判断しています。 しかし、広域化の他の手法につきましても、関係会議等で継続研究します。
1 4		④ 他に配水地の位置により、隣接市から、また、岩出市から配水する。	関係会議等で継続研究します。また、頂きましたご意見につきましては、今後の検討に当たっての参考とさせていただきます。